



北九州市における循環型社会の取り組み ～ 公害対策から低炭素社会へ～



北九州市

内 容

- 1 . 公害対策の経験
- 2 . 環境国際協力の歴史
- 3 . エコタウン事業とその発展
- 4 . 環境首都グランドデザイン
- 5 . 低炭素社会に向けた取り組み
- 6 . 環境人財育成
- 7 . アジアとのWIN-WIN関係へ

1. 公害対策の経験

2. 環境国際協力の歴史

3. エコタウン事業とその発展

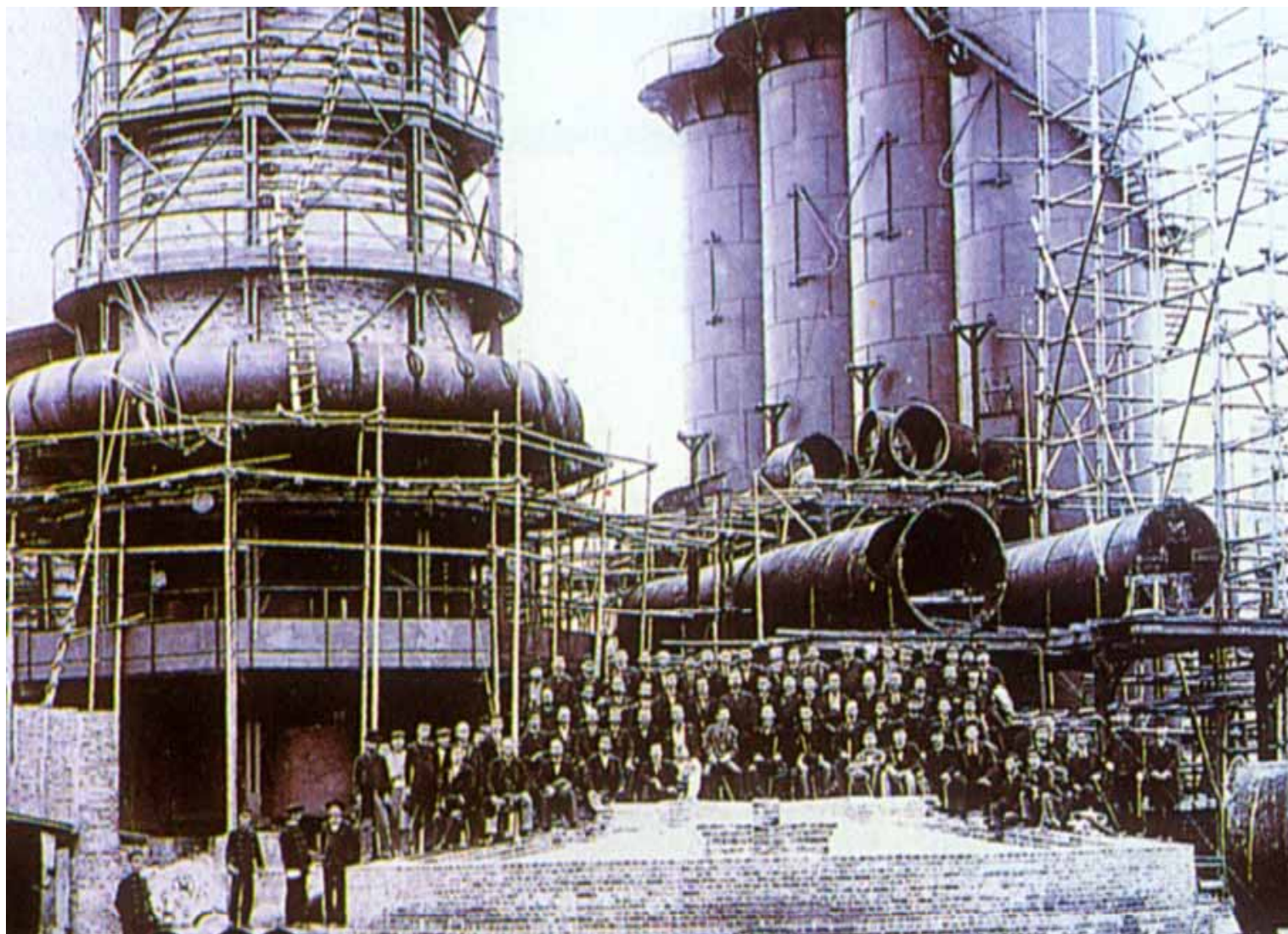
4. 環境首都グランドデザイン

5. 低炭素社会に向けた取り組み

6. 環境人財育成

7. アジアとのWIN-WIN関係へ

北九州市の産業近代化の始まり



1901年、日本初官営一貫製鐵所の操業開始

北九州工業地帯草創期からの公害問題

森鷗外「小倉日記」(1899)

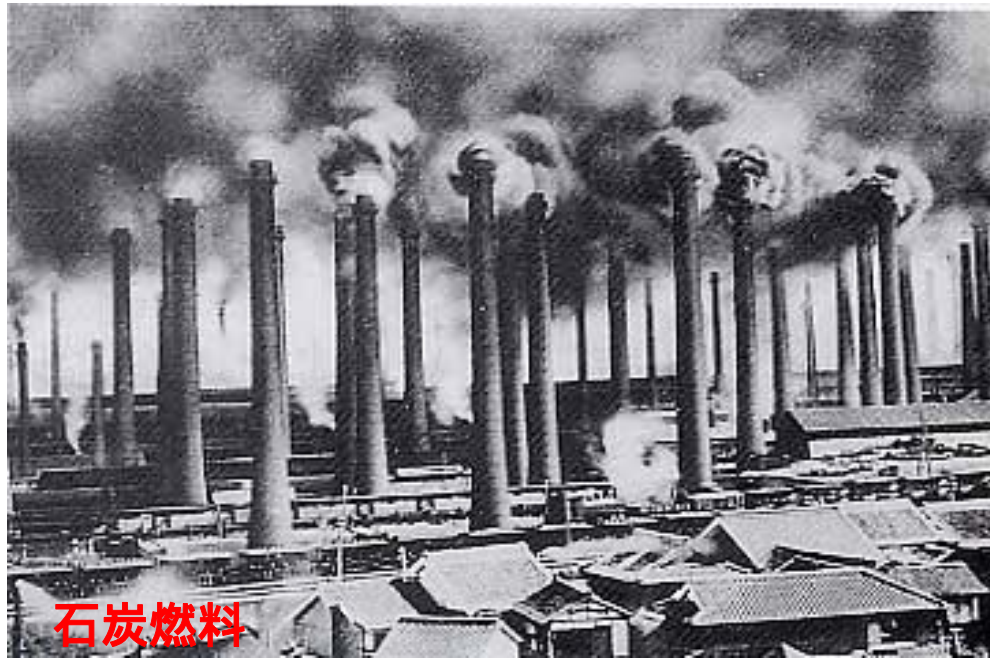
「常盤橋東の川利に往きて鰻を食う…小倉には十数年来唯一此店あり。舟を紫川に泛べて割烹す。然るに近年二厄に遭へり。上流に千壽製紙會社立ちて、河水汚濁し、生州に宜しからざる一なり」

浅野セメント降灰問題(門司市長宛請願書)(1902)

「諸会社の設立せらるるは、市の繁栄上最も慶すべき事なりと雖も…多数人民の利益と財産と其の健康までを犠牲に供せらるる能わず」

洞海湾汚染(福岡県漁業調査報告書)(1917)

「出入り船舶の増加、製鐵所其他工場の興隆は洞海の漁業をして殆ど廃滅に歸せしめんとしつつあり」



石炭燃料

1950年代戸畑区の様況



降下ばいじん量: 80t/km²/月(1965年度)

